



学校・企業のスモールアクション

≡ 東区 Small Action Project ≡



愛知商業高等学校ユネスコクラブ

2011年より「文化のみち」エリアの持続可能なまちづくりに貢献するため、校舎の屋上で養蜂活動を開始。屋上で採れたはちみつを使用したご当地スイーツの開発や「文化のみち」を巡る観光ツアーの開催など、地域に根ざした活動を行っています。また、SDGsの視点からフェアトレードやエシカル消費の普及・啓発にも取り組み、高校生ならではの発想を活かしたさまざまなイベントの企画・運営を行っています。



2020年(令和2年)10月28日 種まきの様子

東区彩るれんげプロジェクト

ミツバチと笑顔の花を咲かせよう

校舎の屋上でミツバチを育てるなど、持続可能な社会を目指し活動する愛知商業高等学校ユネスコクラブ。ミツバチの蜜源としても知られる「れんげ」を通して地域のコミュニティの輪を広げ、笑顔と幸せが溢れるようにと、高校に隣接する東植木公園に地域の皆さんと共にれんげの種をまきました。日頃からこの公園の世話をしている東植木公園愛護会会長の高木信夫さんは「私たち地域と高校生が共に活動することは、お互いプラスの体験になると思う」と目を細めて話します。ユネスコクラブ部長の金丸愛さんは「コロナ禍で恒例のイベントが中止になり、地域とのつながりが薄くなっている中で、地域の皆さんとプロジェクトを始めることができました。この活動が長く続くように大切に世話をしていきたい」と思いを語ります。かつては春の田畑一面に広がっていたれんげ畑。ミツバチの蜜源になるだけでなく、れんげの花を見た区民の皆さんがふるさとや子どもの頃の懐かしい思い出を呼び起こす「記憶の蜜源」になるように、との願いを込めて大切に育てていきます。

まちのためにできること

東区東大曽根町に本社を構える、株式会社ヒメノの皆さん。地域の安心・安全のため、毎月25日の国道19号線歩道の清掃活動や0の日の交通安全活動など、長年にわたり地域活動を続けられています。

そこで今回は、リーダーである武市秀樹さん、伊勢匠良さんと家根谷明弥さんに、活動についてのお話をお伺いしました。

地域活動を始めたきっかけは？

武市さん 「私たち土木業はどうしても地域に迷惑をかけてしまいます。そこで地域のために何かできないかと思ったのがきっかけです」

地域の方からの反応はどうですか？

伊勢さん 「清掃活動をしていると、近所の方から『何をやっているの』といぶかられることもありましたが、説明すると『ありがとう』と感謝されたり、そういうときはやりがいを感じます」

朝早くからの活動、つらくないですか？

伊勢さん 「現場仕事は朝早いのが当たり前ですのでつらくないですよ、と言いたところですが、真夏の暑い日や真冬の寒い日は正直つらいと感じることもあります(笑)」

0のつく日には交通安全活動をされていますが、気になることはありますか？

家根谷さん 「コロナ禍で自転車通勤の方が増えた気がします。子どもたちを気にかけてスピードを出す自転車が多くて、信号点滅が始まれば止まって欲しいです」

最後に地域の皆さんへメッセージをお願いします。

武市さん 「地域の皆様には大変お世話になっております。皆様の温かいお言葉に励まされ、また、『おはようございます』と大きな声で挨拶をしてくれる学生さんに元気をもらい、これらの活動を続けることができている。これからも、『まちのために、皆様のお役に少しでも立てれば』との思いで活動が続けていきたいと考えています。今後とも、よろしくをお願いします」

毎月25日の清掃活動 /



0の日の交通安全活動 /



株式会社ヒメノ

1925年創業。全国の送電系統を支える送電線工事、名古屋市を中心とする地域社会の土木、建築、電気・ガス工事などインフラの充実、整備、維持などに貢献されています。

小さな縁台からはじまるまち育て

NPO法人まちの縁側育くみ隊

代表理事 名畑 恵

私たち「NPO法人まちの縁側育くみ隊」は、「自分たちのまちは、自分たちで守り育もう」そんな地域社会を育てたくて活動しています。東区は私たちの創業の地ですので、本紙に登場する皆さんのような小さな善意のつながりが、地域社会を育んでいることを知ってとても励みになります。

地域に一歩踏み出してみようという方に、実際にあった小さな物語を紹介させて下さい。長野市の上原さんは、ご自宅の門口に小さな縁台を一つ置きました。そこに小さな看板をかがげ、「病院のお帰りや、買い物帰りにどうぞ腰を掛けて休んで下さい」と書きました。自宅の前でうずくまっているお年寄りがいらっしやうたことがきっかけでした。縁台は身体のしんどい人にとつての救いになり、手書きの「どうぞ」の文字に、心があたたかきで満たされた人もいます。ご近所話がはずむ場所にもなりました。上原さんは一層地域にとけこんでいきました。得意の園芸の腕で、ご近所さんの菊栽培を一手に引き受けたりもしました。上原さんは生き生きしていました。残念ながら数年前にお亡くなりになりましたが、メッセージは私達の中に生きています。「ちょっとした“助けてあげたい”という気持ちや、自分の好きなことを開いてみると、実は地域の役に立っているかもしれないよ」

地域は様々な問題を抱えています。貧困・老々介護・育児の悩み・障がいを抱えた家族のこと、コロナ禍に拡がる疑心暗鬼、漠然とした不安…。少なからず誰しもが力を変えて抱えている欠如があります。一方で、制度では埋められない欠如を、あたたかさ、やさしさ、笑顔、楽しさ、信頼感を育むことで、満たしていくことができるのも、地域で暮らす私たちではないでしょうか。あなたも小さな縁台に代わる物語のはじまりをつくってみませんか？

NPO法人まちの縁側育くみ隊
ホームページ
<http://www.engawa.ne.jp>

